

## 「賀川豊彦のお宝発見」その3

# 新聞記事にみる賀川豊彦 (39)

1910 (明治43) 年~1963 (昭和38) 年 (神戸版)

### 第39回 「ノーベル平和賞候補」「三浦清一詩集」

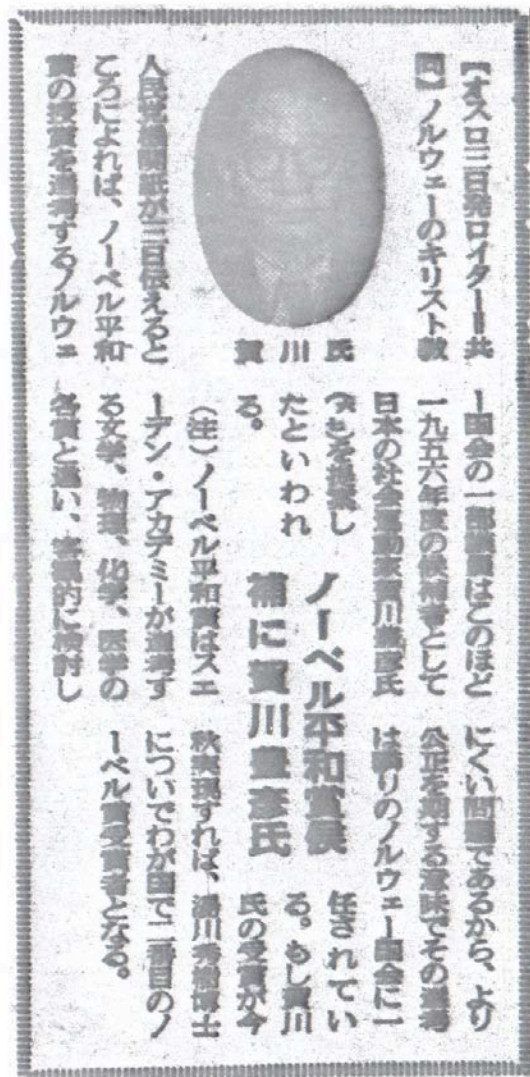
「ノーベル平和賞候補」

1956 (昭和31) 年2月4日「神戸新聞」

#### ノーベル平和賞候補に 賀川豊彦氏

[オスロ三日発ロイター=共同]

ノルウェーのキリスト教人民党機関紙が三日伝えるところによれば、ノーベル平和賞の授賞を選考するノルウェー国会の一部議員はこのほど一九五六年度の候補者として日本の社会運動家賀川豊彦氏 (六七) を提案したといわれる。(注) ノーベル平和賞はスウェーデン・アカデミーが選考する文学、物理、化学、医学の各賞と違い、客観的に検討しにくい問題であるから、より公正を期する意味でその選考は隣のノルウェー国会に一任されている。もし賀川氏の受賞が今秋実現すれば、湯川秀樹博士についてわが国で二番目のノーベル賞受賞者となる。



「オスロ三日発ロイター=共同」  
ノルウェーのキリスト教人民党機関紙が三日伝えるところによれば、ノーベル平和賞の授賞を選考するノルウェー国会の一部議員はこのほど一九五六年度の候補者として日本の社会運動家賀川豊彦氏 (六七) を提案したといわれる。(注) ノーベル平和賞はスウェーデン・アカデミーが選考する文学、物理、化学、医学の各賞と違い、客観的に検討しにくい問題であるから、より公正を期する意味でその選考は隣のノルウェー国会に一任されている。もし賀川氏の受賞が今秋実現すれば、湯川秀樹博士についてわが国で二番目のノーベル賞受賞者となる。

「三浦清一詩集：ただ一人立つ人間」

1956（昭和31）年7月27日

# 孤独な魂の詩

ただ一人立つ人間

三浦 清一著

△三浦君は詩人石川啄木のただひとりの妹の婿にあたる人物で、詩人であり、政治家であり、伝道者である。昭和十九年から賀川豊

藤氏のもとを交遊して神戸市兵庫区楠谷町にドン隠の女を救う愛護館を経営している高名な社会事業家である。また社会党に属する国会議員でもある。購買の生活をしていると、とかく心がよじれや

すく、濁りがちのものだが、この詩集の原稿を見て爽のところ私は驚嘆した。だから私はこの書の序文につきのように正直に書いた。

沙塵に咲く花  
孤島に打つ波  
氷河に啼く鳥  
極北のオーロラ  
そして  
三浦の時、清一のうたー  
三浦の本質は詩人だ。しかしな

まやさしい詩人ではない。彼の詩魂は魂を絶する。絵でいえばゴッホだ。彼の詩はわれわれを圧倒する。われわれの首をしめ、われわれを迫撃する。勝てない。負けだー！当代彼のような詩人はない。彼は提琴でソロを弾かない。弦のないセロに息ふきかけて幻妖な楽をかなでる。彼は輪具を使わない。皿にあるのは血だ。

△この一巻はたしかにただ一人立つ人間が孤独に塊えて慟哭する魂の書だ。彼は自序でこう告白している。



或日私の魂は私にささやきました。お前もそろそろ人並にお前の人生の記

念塔を立ててはどうかと。私の魂は答えて言いました、おもしろい計画だ。早速工事にとりかかるうと。

こうして生れ出たのがこの詩巻だが、それゆえにこの一巻こそ彼の

過去半生の魂の記録なのだ。彼は魂のすべてをこの一巻にぶちこんでいる。限りなく純粋で哀切だ。

△三浦は九州阿蘇の畑を見て育ち、火山の噴煙を胸中に貯えて成長した火山児である。太平洋戦争中暴虐な開の力に迫害されて監房に呻吟したこともある。敗戦とともに神戸のプロレタリアに推されて地方議員となったが、議員たるにはあまりに純情で一本調子すぎる。しかしそれがいいのだ。そういう型の議員をこそ大衆は欲しているのだ。

△この書は彼の半生の膨大な

詩稿から選び出された八十二編を

おさめたものだが、宗教と政治、社会運動と伝道が奇しくも織りなされた一個の人間の魂の記録として、ひろく善悪の人々に愛唱されることを望んでやまない。(神戸兵庫区上沢通四丁目、三浦社会問題研究所扱・三〇〇円) 阪本勝

# 孤独な魂の詩

ただ一人立つ人間

三浦精一著

- 三浦君は詩人石川啄木のただひとりの妹の婿にあたる人物で、詩人であり、政治家であり、伝道者である。昭和十九年から賀川豊彦氏のあとを受継いで神戸市兵庫区楠谷町にドン底の女を救う愛隣館を運営している高名な社会事業家である。また社会党に属する県会議員でもある。議員の生活をしていると、とかく心がよごれやすく、濁りがちのものだが、この詩集の原稿を見て実のところ私は驚嘆した。だから私はこの書の序文につぎのように正直に書いた。
- 砂漠に咲く花・孤島に打つ波・氷河に啼く鳥・極北のオーロラそして三浦の詩、清一のうた——三浦の本質は詩人だ。しかしなまやさしい詩人ではない。彼の詩魂は類を絶する。絵でいえばゴッホだ。彼の詩はわれわれを圧倒する。われわれの首をしめ、われわれを追跡する。勝てない。負けだ——当代彼のような詩人はない。彼は提琴でソロを弾かない。弦のないセロに息ふきかけて幻妖な楽をかなでる。彼は絵具を使わない。皿にあるのは血だ。
- この一巻はたしかにただ一人立つ人間が孤独に堪えて慟哭する魂の書だ。彼は自序でこう告白している。

或日私の魂は私にささやきました。お前もそろそろ人並にお前の人生の記念塔を立ててはどうかと。私の魂は答えて言いました、おもしろい計画だ。早速工事にとりかかるうと。

こうして生れ出たのがこの詩巻だが、それゆえにこの一巻こそ彼の過去半生の魂の記録なのだ。彼は魂のすべてをこの一巻にぶちこんでいる。限りなく純粹で哀切だ。
- 三浦は九州阿蘇の畑を見て育ち、火山の噴煙を胸中に貯えて成長した火山児である。太平洋戦争中暴虐な闇の力に迫害されて監房しんぎんに呻吟したこともある。敗戦とともに神戸のプロレタリアに推されて地方議員となったが、議員たるにはあまりに純情で一本調子すぎる。しかしそれがいいのだ。そういう型の議員をこそ大衆は欲しているのだ。
- この書は彼の半生の膨大な詩稿から選び出された八十二編をおさめたものだが、宗教と政治、社会運動と伝道が奇しくも織りなされた一個の人間の魂の記録として、ひろく善意の人々に愛唱されることを望んでやまない。(神戸兵庫区上沢通四丁目、三浦社会問題研究所扱・三〇〇円) = 阪本勝



<付録>ノーベル平和賞関連の新聞記事（掲載紙不祥、昭和30年2月9日付、松沢資料館所蔵）  
 （2011年4月17日記す。鳥飼慶陽）

第4458号 (朝三報新聞社発行)

## 本年度ノーベル平和賞

# 有力候補に賀川豊彦氏

### 世界的活動、高く評価 門弟らが秘かに手続き

【神戸】本年度ノーベル平和賞の有力候補者として、一般の要々の審査を経て、世界の平和に多大の功績を挙げた賀川豊彦氏を、評議員田中北三郎氏が「ルウネ・ノーベル賞」審査委員会へ推薦されており、本年度の受賞者としての関係者から喜びと期待が寄せられている。

賀川氏は、ノーベル賞の有力候補として、一般の要々の審査を経て、世界の平和に多大の功績を挙げた賀川豊彦氏を、評議員田中北三郎氏が「ルウネ・ノーベル賞」審査委員会へ推薦されており、本年度の受賞者としての関係者から喜びと期待が寄せられている。

賀川氏は、ノーベル賞の有力候補として、一般の要々の審査を経て、世界の平和に多大の功績を挙げた賀川豊彦氏を、評議員田中北三郎氏が「ルウネ・ノーベル賞」審査委員会へ推薦されており、本年度の受賞者としての関係者から喜びと期待が寄せられている。



賀川豊彦氏

賀川氏は、ノーベル賞の有力候補として、一般の要々の審査を経て、世界の平和に多大の功績を挙げた賀川豊彦氏を、評議員田中北三郎氏が「ルウネ・ノーベル賞」審査委員会へ推薦されており、本年度の受賞者としての関係者から喜びと期待が寄せられている。



賀川氏（左）と田中氏（右）

賀川氏は、ノーベル賞の有力候補として、一般の要々の審査を経て、世界の平和に多大の功績を挙げた賀川豊彦氏を、評議員田中北三郎氏が「ルウネ・ノーベル賞」審査委員会へ推薦されており、本年度の受賞者としての関係者から喜びと期待が寄せられている。

賀川氏は、ノーベル賞の有力候補として、一般の要々の審査を経て、世界の平和に多大の功績を挙げた賀川豊彦氏を、評議員田中北三郎氏が「ルウネ・ノーベル賞」審査委員会へ推薦されており、本年度の受賞者としての関係者から喜びと期待が寄せられている。

## 本年度ノーベル平和賞

### 有力候補に賀川豊彦氏

#### 世界的活動、高く評価

#### 門弟らが秘かに手続き

【神戸】本年度ノーベル平和賞の有力受賞候補者として“一粒の麦”の著者とともに、世界の平和にその生涯を捧げてきた賀川豊彦氏（六六）＝東京都世田谷区上北沢二＝がノルウェー・ノーベル賞審査委員会へ推薦されており、本年度の受賞者としての関係者から喜びと期待が寄せられている。

賀川氏が、ノーベル賞の最有力候補に推薦の情報が寄せられたのは、去月十七日神戸須磨区千守町一ノ二七西須磨ルーテル教会ガブリエル・エイクリー宣教師（四四）方にノーベル審査委員会から「賀川氏をノーベル平和賞に推薦するから同氏の履歴書、著書、過去の業績などを二月一日までに報告されたい」とあり、同宣教師は直ちに東京に住む賀川氏にこの旨を伝えたが、同氏は“自分のようなものがノーベル賞などの資格はない”と受けず、困った同宣教師は早速、賀川氏とは師弟の関係にある神戸生活協同組合長武内勝氏（六二）＝神戸生田区中山手通り四ノ二二＝に相談したところ同氏は“ぜひわれわれの手で書類を送ろう”と話がまとまり、忙しい組合事務の間を割いて約三日間で手続き書類の作成や賀川氏の主な著述などを集め、去月廿日同委員会宛に送った。

エイクリー宣教師の話では、現在、平和賞にはマンデスフランス首相、イーデン英外相など三名の候補者があげられているが、賀川氏の業績は古くからノルウェーでも高く評価され同氏の著述は同国民の関心をひき各家庭には殆ど賀川氏の写真を持っており、インドのガンジーや米国のヘレンケラー女史とともに世界の三大人物にほめ讃えられている。同委員会の推薦次第では本年の受賞者に決定するが、遅れても明年には受賞できるといわれている。もしこれが実現すれば中間子の発見でノーベル物理学賞を受けた湯川秀樹博士に次いでわが国二番目のノーベル賞を得ることになり、平和賞の受賞はわが国とソ連、中共との国交回復が進められているとき、特に大きな影響を与えるものと各方面から期待が寄せられている。

賀川豊彦氏は明治廿一年七月神戸兵庫区鍛冶屋町で生れ、わずか四歳で父母に死別、徳島県の実家に引き取られ、徳島中学校で英語を学ぶためバイブルを読み、はじめてキリストに専念する決意を固め明治学院英文科、神戸の神学校に入り、当時貧民窟とされていた生田区新川に入り込み、キリストの宣教を行う一方、貧者の救済に努めた。大正七年アメ

リカ、プリンストン大学に留学、欧米諸国の知識を得て、当時の不景気で激増する失業者、貧民をなくするため川崎、三菱などのストライキには先頭に立ってこれを指導、また農漁村には組合を結成させ、小作制の廃止などを呼びかけ、わが国労働運動の先駆者ともいわれている。その後、これらの体験を生かして著述に没頭、有名な“死線を越えて”“一粒の麦”“貧者の心理”など現在までに百五十冊を発刊、その印税で全国各地に生活協同組合、簡易宿泊所、母子保育寮などを次々と建設した。また太平洋戦争勃発直前にアメリカを訪問、戦争の回避に努力したり、終戦後はマッカーサーに会見、食糧の供給、住宅の建設、天皇制を認めるなどを申入れたり現在でも世界平和を文学、宗教関係を通じて各国に呼びかけるなど平和にたいするその功績は大きい。

**エイクリー宣教師の話** 今のところ何ともいえないが、われわれはできるだけことは尽くしたのであとは委員会からの返事を待つばかりです。平和を望む日本にとってこの上もない話でぜひこれを実現させたい。

**武内勝氏の話** 賀川先生から他言するなといわれていたが、こんな嬉しい話はない。四十五年間先生とともに慈善に努めているが、身の危険をも顧みずただ平和を願う一心から何ごともなし遂げられるのには頭がさがる。この先生の功績が世界の人々に認められる日も近いことでしょう。